

## 2023 年度 相山女学園大学看護学部卒業生への学部教育に関する アンケート調査結果の概要

### I. 調査目的

本学看護学部はこれまで 1000 人以上の卒業生を輩出し、卒業生たちは、様々な状況判断が求められる臨床現場で、指導を受けながらあるいは指導する役割を担い活躍しているものと思われる。2024 年度には開学 15 周年を迎え、4 年間の教育内容が看護実践の場での礎になっているのか、改善点など模索しながら教育している。

そこで、学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けてほしい看護の基礎的能力や資質、及び卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善を目的に以下の調査を行った。

### II. 調査方法

#### 1. 卒業生へのアンケート調査協力の依頼

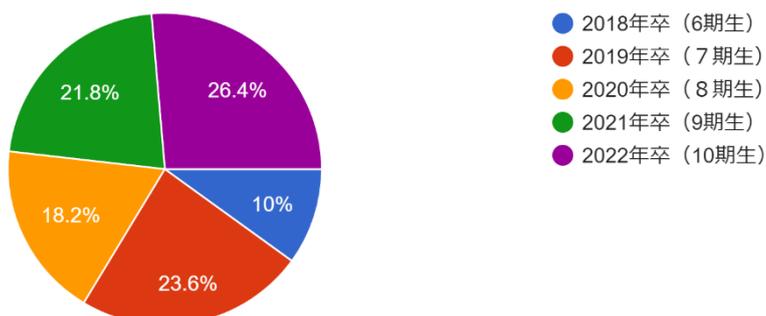
2018-2022 年度卒（6-10 期生）を対象とした。調査期間は、2023 年 11-12 月、Google Form を用いて調査した。

#### 2. アンケート調査内容

- 1) 卒業期
- 2) 以下について 4 段階評価（リッカー度尺度）による調査
  - ①卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：以下 DP とする）の達成度
  - ②大学に対する評価
  - ③教育課程とサポート体制に関する満足度
  - ④施設設備に対する満足度
  - ⑤学生生活に対する満足度
- 3) 2) の回答への理由、在学中に開講して欲しかった科目や支援など自由記載とした。

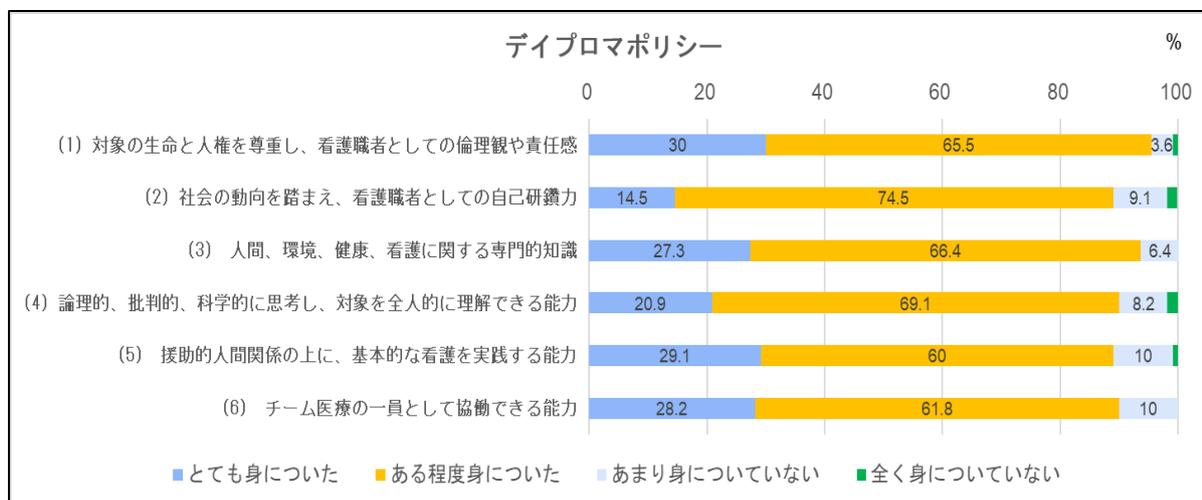
### III. 結果概要

#### 1. 回答数 110 名（回収率約 20%）



## 2. 調査内容に関する結果

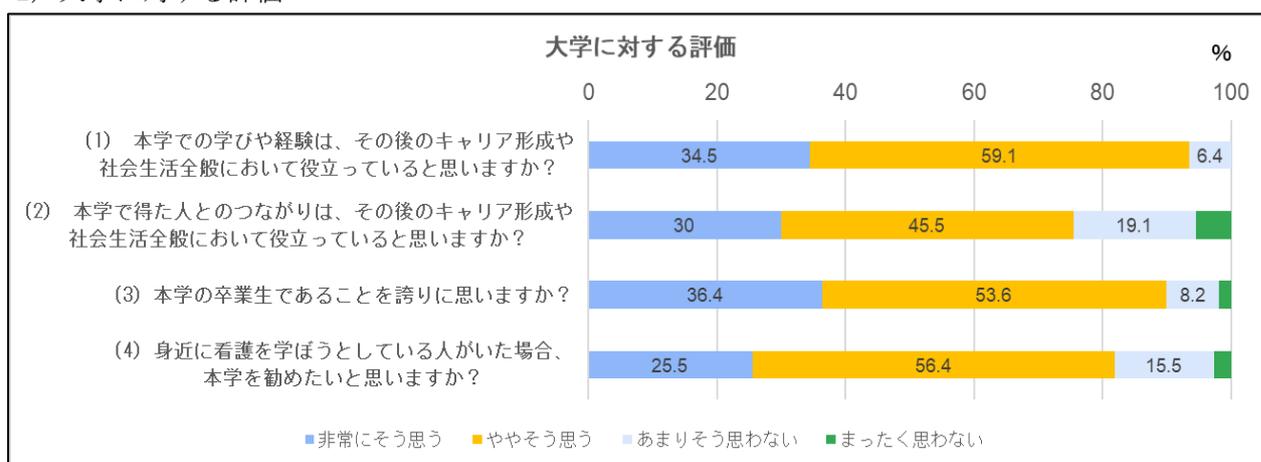
### 1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の達成度



#### \* 本学の DP に関する意見

- ・実践する能力を養うために現場に即した技術に関する授業が増えるといい。
- ・コロナ禍であり、ほとんど臨地実習ができなかったため、患者さんと直接関わる中での看護実践能力を養うことや、実際に現場で働く医療者との関係性を構築することは難しかった。
- ・実践力のある看護師となるために必要な内容だと思う。
- ・看護職として働き、看護学部で学んだ「生活者として捉える」「人間の反応を見る」ということがいかに必要かを実感し、この考えを大切にしながら看護を行っています。
- ・全部できたらいい看護師さんになれると思います。

### 2) 大学に対する評価



#### (1)-(4)の理由

- ① 様々な実習先により、就職活動へのメリット
- ② 教員の手厚いサポート

③生涯の友人の存在

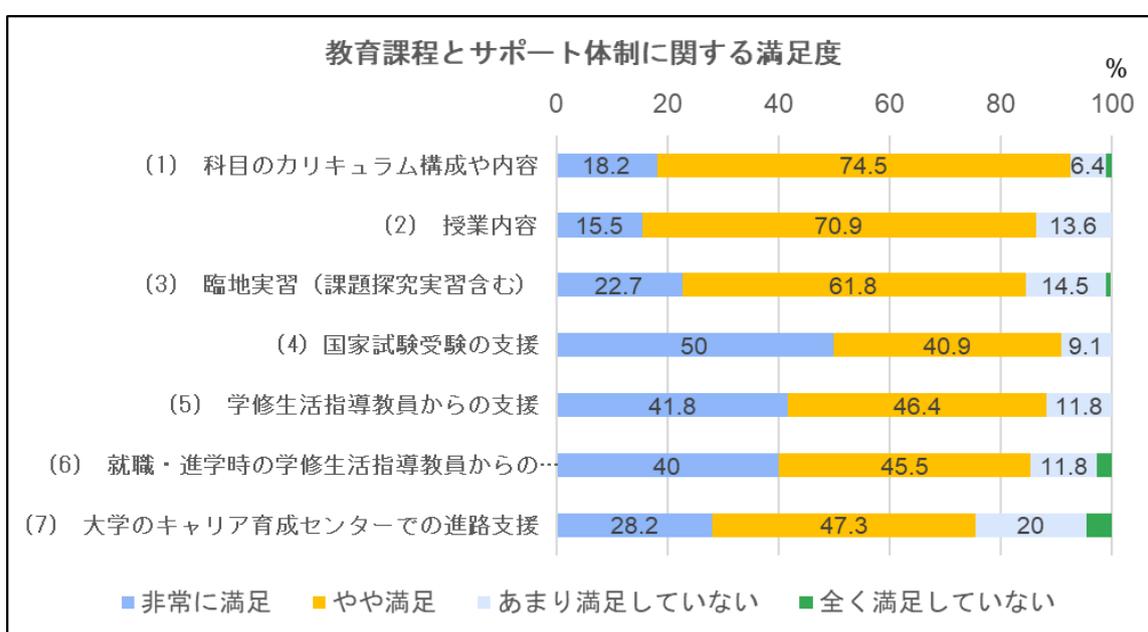
④充実した教育内容・施設およびサポート

⑤梶山のブランド力

⑥否定的理由

- ・医学、薬学、理学療法等を有する医療系大学と比較すると、他の分野の学生との係る機会が少ない。
- ・学費が高い

### 3) 教育課程とサポート体制に関する満足度



### 4) 施設・設備への満足度

教室、演習室、各学実習室、図書館、食堂など8割以上がやや満足以上であった。

＜在学中にあったら良かったと思われる施設・設備＞

- ・ ATM、コンビニ、コンビニ以外の飲食店
- ・ 飲食してよい自習室
- ・ 広い教室が1つのみのため、もう少し増えとうれしい。
- ・ 図書館に関しては、医療系の参考書の数が他の大学と比べて少ない。
- ・ ロッカーが狭く、混雑をしてしまうためもっと広いと良かった。
- ・ 自習室は特に日時によって座席数が少ないこともあり、勉強する場所に困ったことが何度かありました

### 5) 学生生活への満足度

友人関係は「非常に満足」が50%を超える一方で、サークル活動、大学祭、地域住民との交流や地域との関わりは、「あまり満足していない」40%前後であった。

#### IV. まとめ

回収率が約 20%と少数ではあったが、教育の成果や効果を明らかにすることができた。卒業認定・学位授与の方針 (DP) の達成度は、6 項目すべて「とても身についた」「ある程度身についた」といった肯定的な回答が 8 割を超えていたことや、自由記載にあった「看護職として働き、看護学部で学んだ“生活者として捉える”“人間の反応を見る”ということがいかに必要かを実感し、この考えを大切にしながら看護を行っています」などから、卒業生が 4 年間の教育を経て本学の DP を実践できているものと思われる。しかし中には、「現場に即した技術に関する授業が増えるといい」や「看護実践能力を養う」「実践力のある看護師」といった、実践力を教育に求める声も少なからずあった。本学の DP の 5 つ目にも「基本的な看護を実践する能力」を掲げている。4 年間の看護基礎教育の中で、どこまで実践力を養っていけるか、教育プログラムの見直しとともに今後検討していく予定である。

大学に対する評価、教育課程とサポート体制に関する満足度においても、ほとんどの項目が肯定的な回答であった。特に、国家試験への支援、学修生活指導教員からの支援など充実したサポート体制に対する満足度が高かった。少人数制の教員の丁寧な支援は、本学の強みでもあるため継続していく。しかし自由記載の中には「医学、薬学、理学療法等を有する医療系大学と比較すると、他の分野の学生との係る機会が少ない」、学生生活への満足度として、友人関係は「非常に満足」が 50%を超える一方で、サークル活動、大学祭、地域住民との交流や地域との関わりは、「あまり満足していない」40%前後であった。過密なカリキュラムも影響してか、総合大学であるにもかかわらず他学部の学生との交流を持つ機会が少なく、そのメリットを活かせていないことが課題である。改正カリキュラムにおいては、看護学部内だけにとどまらず他学部とコラボレーションも見据えた教育内容を検討していきたい。